

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	スポーツ振興課		
	係名	スポーツ振興係		
	記入者		電話(内線)	613

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	スポーツ団体・指導者育成事業		(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ				(6) 事業主体	市	
① 事業の区分	主要事業			(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)
② 施策コード	43201	(総合計画掲載ページ)	123		会計区分	一般会計
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)				財源区分	市単独
基本施策	4-3誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進(スポーツ)				予算科目	款 10 項 6 目 1
施策	②スポーツ・レクリエーション活動への支援				予算書上の	スポーツ推進委員・スポーツ推進審議会運営経費
施策内容	1指導者の育成と資質の向上				事業名称	(予算書 179 ページに掲載)
(5) 事業期間	開始	年	月から	(8) 事務分類	自治事務	
	終了	年	月まで (カ年)	根拠法令	スポーツ基本法	

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
・スポーツ団体所属者等 ・小中学生から老人会等各種団体 ・市民全般(特に定期的にスポーツを行っていない者) ・スポーツ推進委員	スポーツ推進審議会及びスポーツ推進委員制度を活用し、活力ある生涯スポーツ社会の実現、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる環境を構築する。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
・スポーツ推進審議会の開催 ・スポーツ推進委員の委嘱、連絡協議会の設置及び運営 ・スポーツ推進委員の各種研修会等への参加 ・ふれあい出前講座の開催 平成29年度 スポーツ推進委員PR用ジャージ作成	スポーツ基本法などにに基づき、各市町村で審議会の設置、推進委員の委嘱を行っている。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
・市民のニーズが多様化しているため、様々なスポーツを紹介できる機会、スポーツ推進委員の充実を図る。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映					
実施計画											
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）					
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度	
(1) 事務事業費	事業費	報酬		456		585					
		旅費				126					
		需用費		2		5					
		負担金補助及び交付金		26		67					
	合計		484		783						
	財源	国庫支出金（千円）									
		県支出金（千円）									
地方債（千円）											
その他特定財源（千円）											
一般財源（千円）		484		783							
合計（千円）		484		783							
補助・起債制度名											

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	スポーツ審議会の開催	目標値	回		2	1	1	1
		実績(見込)値		1	2			
	スポーツ推進委員の委嘱	目標値	人		20	20	20	20
		実績(見込)値		16	20			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	茨城県スポーツリーダーバンク登録者数	目標値	人		28	30	32	34
		実績(見込)値		26	28	30	32	34
		達成率		76.5 %	82.4 %			
	スポーツ団体登録数 (結城市体育協会、スポーツ少年団)	目標値	団体		47	47	47	47
		実績(見込)値		47	47	47	47	47
		達成率		100.0 %	100.0 %			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

スポーツ推進審議会にて社会教育団体への補助金交付に関する審査を行うとともに、スポーツ推進委員により、ふれあい出前講座の実施や市イベントで誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を提供した。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	結城市のスポーツ振興を図るうえで、団体及び指導者の養成は必要である
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	市は、地域の特性に応じた施策を策定し、実施する責務がある
	手段の妥当性	A	妥当である	一般的であり、特に問題はない
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	スポーツリーダーも徐々に増えており、効率は向上している
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	スポーツの基本方針を検討する機関の設置及びスポーツリーダーの育成等、市のスポーツ振興を図ることを目的としている
有効性	成果の向上	A	上がっている	スポーツリーダーも徐々に増えており、効率は向上している
進捗度	事業の進捗	A	順調である	市のスポーツ振興が図られている

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

徐々にではあるが、市のスポーツ振興は図られており、今後も団体・指導者の育成を実施する。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

スポーツ推進委員を始め、各団体等へ指導者講習会等への参加を積極的に働きかけ、市内の指導者の増加と資質の向上を図る。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	活力ある生涯スポーツの実現、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境の整備を推進するため、スポーツ推進審議会やスポーツ推進委員制度の活用及び周囲へのPRを図っていく。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。